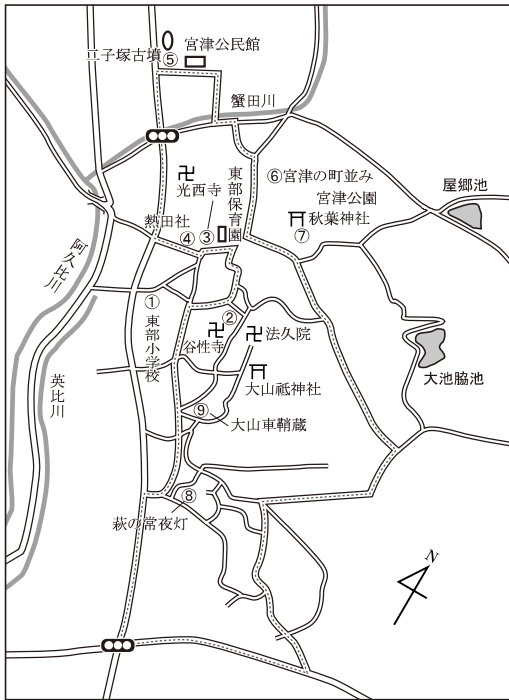


シリーズ

阿久比を歩く ⑥



史跡めぐりコース



町教育委員会作製の「ふれあいマップ」

町教育委員会が作製した『ふれあいマップ』の各コースをぶらり旅することにした。今回は「史跡めぐりコース」を巡った。

東部小学校からスタートを切る。朝方の雨で地面が少しぬれている。友人が「わが母校ですよ」と言いながら、自慢げに校歌を口ずさむ。時より吹く風は秋の風で気持ちがいいが、彼の歌声はいまいち。

民家の間の細道を通り、第二エツ

ふれあいマップを歩く(史跡めぐりコース)

あ

ぐ

い

ぶ

ら

り

旅

クポイントの谷性寺へと向かう。寺に着く。境内はとても静か。奥の墓地的方から線香のにおいが漂う。六地藏が穏やかな顔をして立ち並んでいる。軽く会釈をして次へ進む。

少し歩くと、第三エツクポイントの光西寺の屋根が見えてくる。規則正しく並べられた瓦と反りは立派で美しい。寺の山門をくぐる。右手は東部保育園。普段は元気な子どもたちの声でにぎやかな園も、今日は休みでひっそりとしている。ツクツクボウシの鳴き声だけが境内に響く。鐘楼堂横に滑り台がある。友人の目の色が変わり、瞳は子どものように輝いている。満面の笑みを浮かべ、滑り台に駆け寄り、私の顔をうかがう。「はずかしいからやめとけ」と目で合図を送る。友人は滑るのをあきらめ「子どもはどうして滑り台で遊ぶのが好きなのですかねえ」と私に問い掛ける。「君が一番分かってるだろう」。「・・・」。(笑)

第四エツクポイントの熱田社は光西寺のすぐ西隣り。熱田社に立ち

寄る。



宮津熱田社常舞台正面上部の「力神」

常舞台が残る。昭和三十年ごろまで村芝居が盛んに行われ、近在の人々が熱心に観劇を楽しんだ場所である。常舞台正面上部に一對の「力神」が境内を見張る。眼光するどく、寄木彫りの彫刻はダイナミックで力強い。

樹齢は不明だが、安永三(一七七四)年に熱田社が建て替えられる際、植樹されたと言われている二本の楠(町指定天然記念物)が大切に保護されている。むき出しになった楠の根っこ付近でアリたちが、自分の体よりも大きな昆虫の亡き骸を一生懸命運ぶ。自分たちの食事として巣まで運んでいくのだろう。「頑張れ」と二人で声援を送る。「力神」も身を乗り出して応援しているようにも思えた。

次回へ続く。

シリーズ

阿久比を歩く ⑥1



史跡めぐりコース



宮津の町並み

第五チェックポイントの「二子塚古墳」からぶらり旅を再開。
二子塚古墳は古墳時代中期後半の前方後円墳で町の指定文化財になっている。本格的な発掘調査は行われていないとのこと。こんもりと盛り上がった二つの神秘的な丘。何が眠っているのか興味津々だ。
第六チェックポイントの「宮津の町並み」を歩く。狭い路地が多く、道はそれぞれの民家へと続く。昔な

ふれあいまっづを歩く(史跡めぐりコース②)

あ

ぐ

い

ぶ

ら

り

旅

つかしい板塀の家並みが残る。車の通りも少なく、静かな雰囲気。首輪に鈴を付けた猫ならぬ犬が、短い足でチョコチョコと私たちの前を横切っていく。とてもどかだ。
町並みを通り抜け、東へ歩くと常夜燈を発見。その横の坂道は第七チェックポイント「秋葉神社」へと続く。坂道の石段を数えながら登っていく。「秋葉神社か、アキバ系ですよ」途中で友人がつまらないことをいうので、数えた石段の数を忘れてしまう。
「柳審城」と呼ばれる城があったと伝承が残る地に秋葉神社は建つ。ここから西側を望むと阿久比川を中心とした田園を眺めることができる。実りの秋。稲穂を付けた田は黄金色と黄緑色に、穂がこれからという田は緑色と三つの色をかもした田園は今の時期にしか見ることができない。一望できる景色も素晴らしいが、自然が作り出す色も見事だ。「アキバ系で言うところの「萌え」かなあ」と友人がつぶやく。漫画好きと聞いてはい

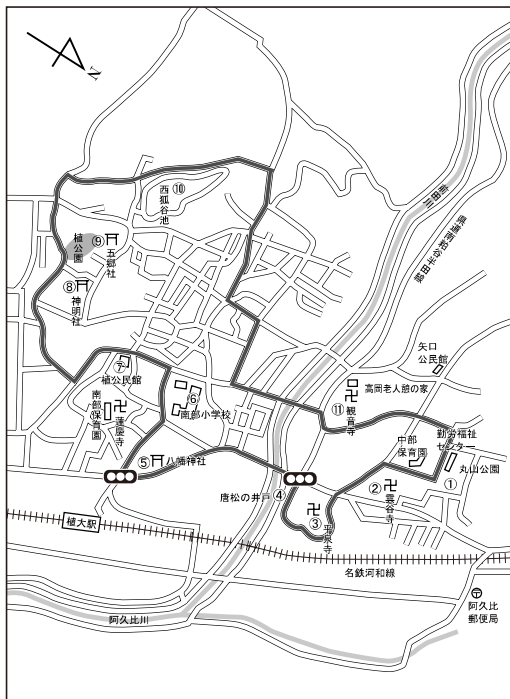
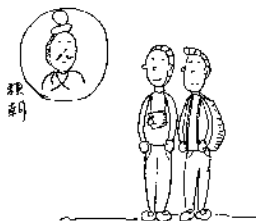


秋葉神社の参道入口に建つ常夜燈

たが友人は以外と「オタク」なのかもしれない。
第八チェックポイント「萩の常夜燈」を通過して、最後の第九チェックポイント「萩大山車輶蔵」に到着。流れる汗をタオルでぬぐい、輶蔵の前に座り込み休息を取る。
出発地点の東部小学校へと向かう。キンモクセイの木が民家の庭先に見える。花を咲かせ、秋風とともに、甘い香りを運ぶのも、間もなくのことだろう。「♪晴れわたる 空は青空 夢と希望と 白雲と♪」。友人が歌う。「今日の日にぴったりの詞だねえ。そのメロディーどこかで聞いたよなあ」と私が聞く。「我が母校、東部小学校歌の第三番です」。史跡めぐりコースは友人の歌に始まり、歌で終わった。

シリーズ

阿久比を歩く ⑥1



史跡めぐりコース



町教育委員会作製の ふれあいマップ

「ごんげん山」コースをぶらり旅に出掛けた。第一チェックポイント「丸山公園」からスタートを切る。朝から雨が降り一週間前の気温とはかなり違い、肌寒ささえ感じる。勤労福祉センター南で、災害時の飲料水を確保するための貯水槽工事が進む。中部保育園横の細道を通り抜け、第二チェックポイント「雲谷寺」に着く。山門に彫られた龍の彫刻は迫力があ

ふれあいマップを歩く(ごんげん山コース①)

あ

ぐ

い

ぶ

ら

り

旅

る。少し境内を散策して先を急ぐ。第三チェックポイントの「平泉寺」に到着。西から境内に入る。文治六(一一九〇)年、源頼朝が野間大坊に父義朝の墓参りをした帰途に立ち寄った場所である。頼朝公はこの寺から見た中秋の名月の美しさを賞して、「大乘坊」から「円月坊」と称するように命じたとされ、それ以来坊内を円月坊と呼ぶようになった。 「イクニ(一一九二)つくろう鎌倉さんの頼朝さんですよ。ここで見ながら、やつぱり団子も食べたんですかねえ。ところで先日の中秋の名月を見ましたか」と友人が私に話し掛ける。「プロ野球セリーグの優勝争いが気になって月どころじゃなかったよ。いらいらして団子を二つも食べちゃって、胃がもたれて寝つきが悪かったよ。友人は興奮してしゃべる私を見てそれ以上話し掛けてこなかった。 平泉寺を後にして少し坂になった参道を南へ下っていく。第四チエツ

クポイント「唐松の井戸」はすぐ目の前。この井戸は円仁(慈覚大師)の祈とうにより水が湧き出し、農民を日照りから助けたと伝えられる。今日は天から水が落ちてきて私たちの足元をぬらす。恵みの水ではなく無情の雨である。

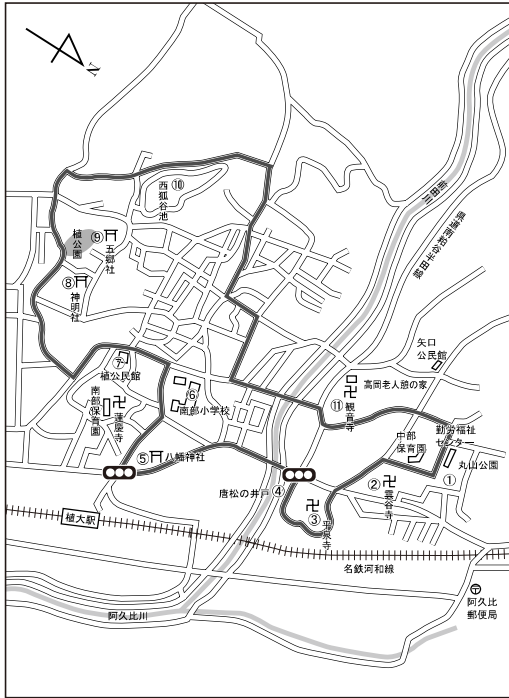
県道に出る。道沿いの土手に赤いヒガンバナが花開く。今年の夏の猛暑の影響で例年に比べると、花が咲き始めるのが遅いようだ。どことも意味深げな花。巻きつくような花の形はどこかミステリアス。雨にぬれると何となく寂しさも加わり、一層不思議さが増す。「ヒガンバナか。うん。思い出せないな。ヒガンバナ。ヒガンバナ」友人が何を思い出そうとしていたのか、ヒガンバナ同様にミステリアスであった。 第五チェックポイントの「八幡神社」まで来て、今回のぶらり旅を終えた。次回につづく。



土手に咲くヒガンバナ

シリーズ

阿久比を歩く ⑥2



ごんげん山コース



五郷社の入り口付近

ごんげん山コースの第六チェックポイント「南部小学校」から歩き始める。前回は雨に降られたが今日は秋空のいい天気。フェンス越しに小学校を眺める。休日とあつて小学校の校庭はひっそりと静まり返っている。

「新聞に阿久比町で野生のキツネが発見された記事が載っていたよね。」「見ましたよ。今日のごんげん山コースで『ごんぎつね』の仲間た

ふれあいマップを歩く(ごんげん山コース②)

あぐいぶらり旅

ちに会えるかもしれませんねえ」。かすかな期待をいだきながら友人との会話を続け、南の方へ少し歩くと第七チェックポイントの「植公民館」に到着する。

私財を投じて公民館建設に尽力したという女性の銅像が建つ「多分すてきな人だったんだろうなあ」と友人と話しながら銅像に向かい手を合わせる。

町並みを進む。民家の板壁に、今ではあまり見られなくなった、蚊取線香や農機具の看板が張られている。メッキがはがれ茶色いさびが目立つ黒色の壁に、昔懐かしい看板は昭和の時代に戻ったようなレトロな雰囲気をかもしだす。

第八チェックポイントは「神明社」。神社へ南から上る石段と南東から上る「女坂」と呼ばれる参道の接点に『磐座』とよばれる石がある。古代のご神体で祭りの際、神が鎮座する場所と考えられていたようだ。私が女坂から上り、友人は石段を上る。途中で一緒にになり、最後は二人で磐

座の場所に着く。四方を柵で囲った中に、しめ縄が飾られた石がまつられる。薄暗い境内の入り口で、木漏れ日がとがった石の先に当たる。その光景は、何かが飛び出してくる前兆のような光の輝きを発し、とても神秘的である。

新美南吉の童話「ごんぎつね」の舞台になったと言われる第九チェックポイント「五郷社」に立ち寄る。神社のある森を権現山と呼ぶ。第十チェックポイントの「西狐谷池」から権現山を望むことができる。池の水面に山が映る。友人は「逆さ富士」ならぬ「逆さ権現山」ですね」と言いながら腕を組み、あごの下を手のひらでなでる。

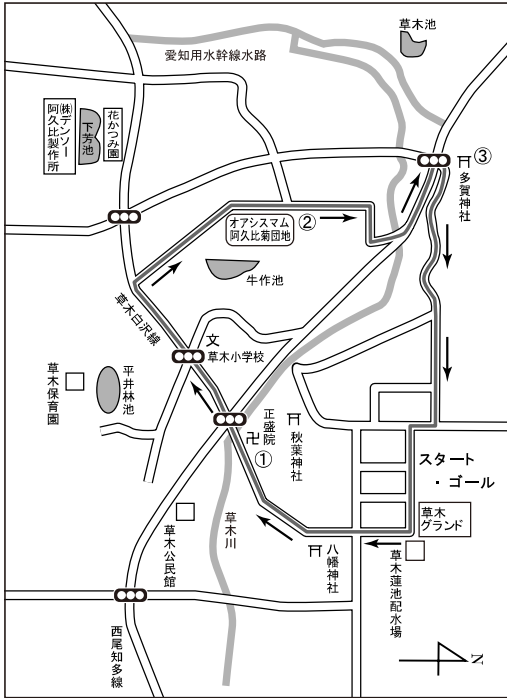
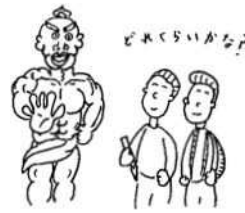
最後の第十一チェックポイント「観音寺」が見えてきた。キツネは現れなかったね。」「そうですね。これを見てくださいよ。コーン。コーン」と友人が両手でキツネの顔を作り、かくし芸を見せてくれた。私は目を細めた。



西狐谷池に映る「逆さ権現山」

シリーズ

阿久比を歩く ⑥4



正盛院仁王門

十月十三日、町青少年健全育成地区推進員連絡協議会主催の「ふれあいハイク」に友人二人と参加した。コースは「ふれあいマップ」花かつみコース（花かつみ園は花の開花時期でないためコースから外れる）の短縮バージョン。

午前八時半、集合場所の草木グラウンドで受け付けを済ませる。ゼッケンと記念品のボールペンをもらう。記念品を手にして喜ぶ友人の笑顔は

ふれあいマップを歩く（ふれあいハイクに参加①）

あぐいぶらり旅

隣にいた小学生と同じくらいにまぶしい。途中でリタイヤしないように足首を回し、アキレス腱を伸ばす。準備万全、いざスタート。

草木蓮池配水場の前を通り農道を歩き、八幡神社の前を横切る。田んぼには刈り取った稲が「はざ」に掛けられる。柿の木の実が色づく。のどかな秋の風景が広がる。風に流れてくるキンモクセイのにおいが心地いい。家族で参加した親子からは楽しそうな笑い声が聞こえる。

第一チェックポイント正盛院が見えてきた。参道入り口でクイズラリーの問題が出題されている。正盛院には町指定文化財の仁王門（一七五二年建立）と仁王像（室町時代初期の作と推定）がある。

仁王像の身長を問うクイズだ。ふれあいハイク参加者が仁王門の中に収められた仁王像をのぞきこむ。大きく目を見開いた二体の像が私たちをにらみつける。「答え分かった？」と友人に尋ねる。おぼさんが③の百八十五センチだと話していたのが聞こえ



ふれあいハイクを楽しむ参加者

てきたので③にしようかなと思えます。」「そうなの。僕は①の百六十五センチにするよ。」「阿吽の呼吸」で門番を務める仁王像の前で意見の全くかみ合わない二人である。正解は②の百七十五センチ。

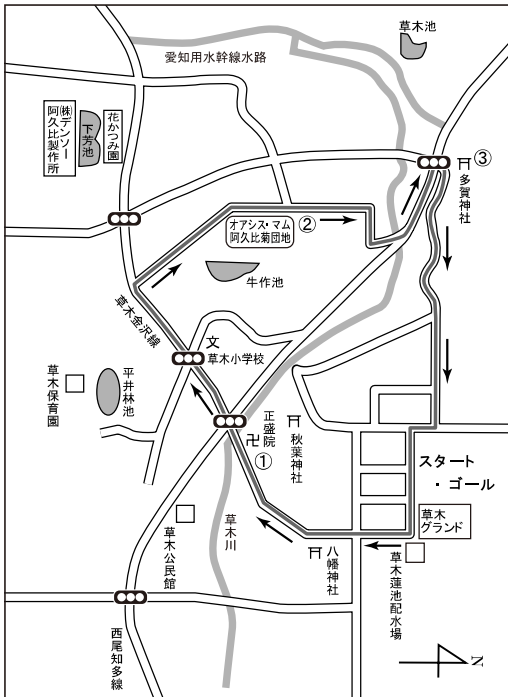
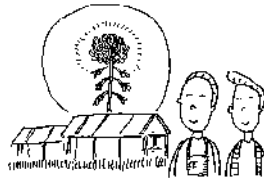
正盛院境内はイチヨウの木から落ちた銀杏の独特なおいが広がる。「炒って食べるとおいしいんだよ。お父さんのビールのおつまみにしようかな」と女性が落ち葉の中から銀杏を拾う。腰を下ろして休んでいると旗を持った先頭が再び歩き始めたので後に続く。

草木小学校を過ぎたところで、友人が参加賞のボールペンを手に持つて何やら紙にメモをする。そつとぞいて見ると「柿」という文字が書かれてある。「何書いているの」と聞くと「秋をテーマに俳句でも作ろうか」と思いました。「へえ・・・」。期待してるから。（その後友人の句は「柿」から全く筆が走っていないかった）

次回へつづく。

シリーズ

阿久比を歩く ⑥5



ごんげん山コース



沿道にはきれいな花

草木金沢線を西に進み、少し歩いて右側の農道に入る。ところどころにコスモスが咲く。
「小学校四年生の国語のテストで『コスモスは春夏秋冬のどの季節に咲く花ですか』という問題に『春』と答え、不正解だったときから、コスモスは『秋』に咲く花であることを覚えたよ」と友人に話したら、人間は間違えをして、一歩ずつ物事を覚えていくものですね。しかし

ふれあいマップを歩く(ふれあいハイクに参加②)

あぐいぶらり旅

なぜ「秋桜」と書いてコスモスと読むのでしょうか。「……?」。二人で首をかしげる。
少し坂がきつくなる。ふれあいハイク参加者の口数が少なくなる。ハウスが連なる第二チェックポイントの「オアシス・マム阿久比菊団地」が見えてきた。
風を通すために開けられたハウスの窓から緑色の菊の茎が見える。ここで育てられている菊は、電気の明かりで日照時間を調節することから「電照菊」と呼ばれ、ハウスは夕方になると一斉に電灯がともる。日照時間を短くすると花芽が付き、つぼみがふくらみ開花するので、人工的に日照時間を長くして開花時期を遅らせるとのこと。菊を作る人たちは、これから正月にかけてとても忙しい時期だろう。
高台から東の方に三河の山、西の方に鈴鹿の山が見える。緩やかな坂を下り、しばらく歩くと西尾知多線にぶつかり、道なりに進むと第三チェックポイントの「多賀神社」に

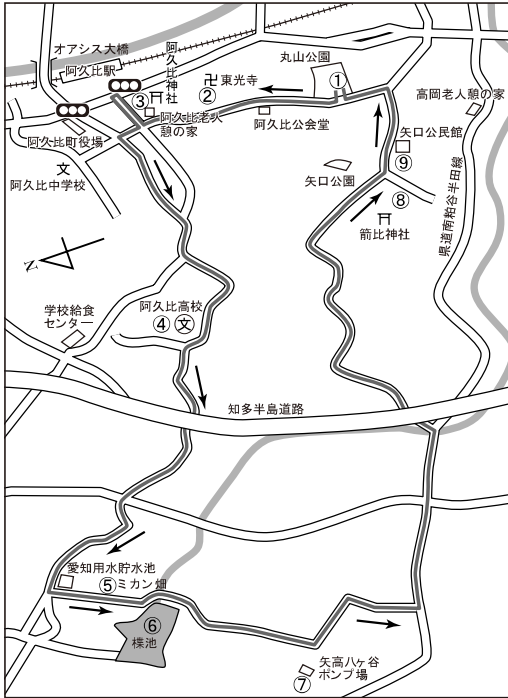
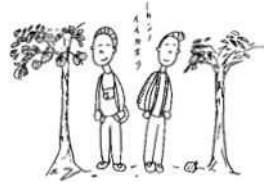


ゴールを目指す ふれあいハイク参加者

到着。
多賀神社には、近江国多賀大明神が草木地区に現れたときに、神殿を再築したいわれが残る。「寿命の神様」としても知られる。
友人が大きな声で「知多半島の人たちが厄払いに出掛ける滋賀県の大賀神社と同じ流れをくむ神社らしいですよ。今年前厄で、来年厄年ですよ」と話し掛けてくる。周りの人に年が分かるとはすかしい年ごろなので「う、うん……」と返事をこまかく。神社の話は友人に聞く前から知っていたので、着いたらすぐに「つそりとお参りだけは済ましていた私である。」
ゴールまであとわずかなになる。草木グランドが見える。今日は多くの方と会話が楽しめた。心地いい汗もかけた。最後に「ふれあいハイク」スタンプから「完歩証」のスタンプを押してもらう。いつもと違う「ぶらり旅」ができた。

シリーズ

阿久比を歩く ⑥⑥



オレンジコース



丸山公園周辺のケヤキ

ミカンのおいしい季節が到来。この時期にはぴったりの「オレンジコース」をぶらり旅に出掛けた。天候は晴れ。小春日和^{こはるびよ}とは今日のような日をいうのだろう。太陽の日差しがまぶしく暖かい。

第一チェックポイント「丸山公園」からスタートを切る。周辺のケヤキの葉は黄金色。公園内の地面も落ち葉で黄金色に染まる。木の葉がヒラヒラ舞い落ちる光景は何だか寂しい

ふれあひマップを歩く(オレンジコース①)

あぐいぶらり旅

ですよねえ」ぼそつと友人がつぶやく。「公園に」初老を迎える男と「にやついた男」。世間は落ち葉よりも私たちの背中に哀愁を感じるんじゃないのかなあ。「クリスマスも近いのに二人でこんな場所にいるのはおかしいですよね・・・」。

しばらく歩くと、民家の間に一部分だけ突出した屋根瓦が顔をのぞかせる。頂上部分には「英比山」と刻まれた文字が見える。第二チェックポイント「東光寺」である。

菅原道真の孫雅規が開いたといわれる東光寺。雅規が英比^{あぐい}の郷を治めたいわれにちなみ山号を英比山と称する。寺は高台に建ち、参道の坂道から町の東部が一望できる。番犬が私たちを歓迎してくれるかのようにしっぽを振っている。お返しとばかりに私たちも犬に手を振り、寺を後にする。

第三チェックポイント「阿久比神社」に立ち寄る。今年の阿久比谷虫供養はこの場所で行われた。入り口横に残された大塔婆が虫供養会場の

跡を残す。多くの人でにぎわいをみせた当日とは違い境内は静かだ。神社を出て、西に向かつて歩く。第四チェックポイント「阿久比高校」を通過する。第五チェックポイントの「ミカン畑」を目指し農道を歩く。途中で通行止めの道に出くわす。回り道をしてチェックポイントを目指したが道に迷う。行けども行けどもミカン畑が見えてこない。二人にあせりが出始める。

「遭難したらどうしようね」。「遭難は大げさだろう。まあ何とかなるさ」と会話をしていた矢先、友人が鼻をクンクンさせ「甘酸っぱいにおいがしませんか? 多分あの奥がミカン畑ですよ」と指を差すので行ってみる。一面に鈴なりのミカンやっとの思いでミカン畑にたどり着く。

友人が意外に鼻の利く男だと新しい発見をした。今度は小判でも探し当ててくれよ」と私が冗談を言うと、「ガソリン代が値上がったので石油でも掘り当てますよ」と真剣に目を輝かせていた。

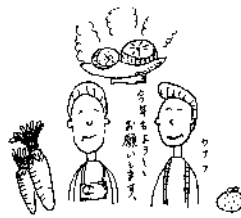
次回につづく。



虫供養で使用された大塔婆

シリーズ

阿久比を歩く ⑥7



オレンジコース



ミカン畑

第六チェックポイントの「樺池」は堤防から十メートルほど離れたところまで水が干上がり、ひび割れた地面が見えている。そこにたえずでいる首が長く足の細い二羽の鳥は、私たちに気づき、大きな羽を広げて空に飛び立つ。「鶴でしょうかねえ」「違うだろう」あつさりと友人の一言を否定し、「オレンジコースマップ」で次のチェックポイントを確認する。

ふれあいマップを歩く(オレンジコース②)

あぐいぶらり旅

西の空には中部国際空港を飛び立った飛行機が見える。畑では勢いよくネギが伸び、ダイコンはよきつと土の中から首をのぞかせる。「俳句を作るときに『大根』と言えは冬の季語でしたよね」「そうだったと思うよ。一句どう」「ああ大根 おでんが食べたい 煮物もいい」「(詠み人友人)」「・・・」そうこうしているうちに、町の南部地区全域と東部、英比地区の一部に水を給水する第七チェックポイント「矢高ハケ谷ポンプ場」を通過。そこから南部工業団地の方へと下って行く。瓦工場が見える。工場敷地にたくさん瓦が積まれている。「空手家が頭突きで瓦を十枚も割るのはかっこいいよね。君もどう」「痛いのでそれはいやですね。豆腐の角くらいがいいですよ」「そうですね」。



干上がり 地面が見える樺池

ポイント「箭比神社」を目指す。神社に着く。延喜十二(九一二)年の創建といわれ歴史は古い「阿久比の植物の宝庫」と言われる森林の中に神社はある。参道は日中でも日が当たらないせいか、歩く石段に緑色のコケがむす。二人ともすべって何度かこけそうになる。

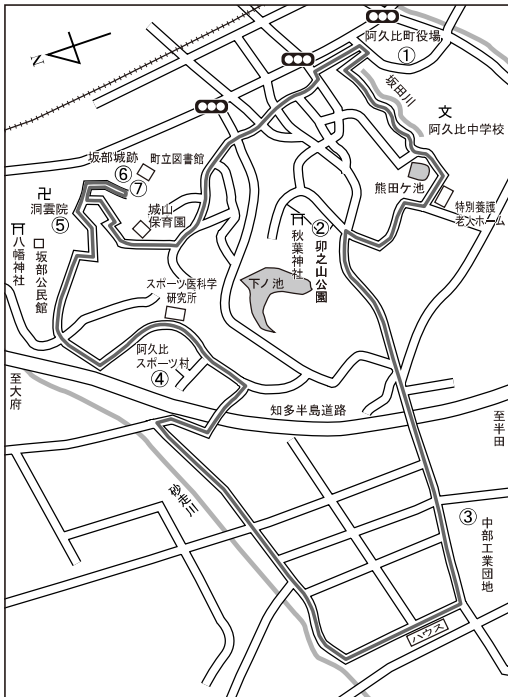
二〇〇七年最後の「ぶらり旅」なので、一年間旅を続けられたお礼と二〇〇八年のさらなる飛躍(勝手に二人で活躍したと思っている)を本殿の前で願ひ、神社を後にする。

最後のチェックポイント「矢口公民館」を通り、ゴール地点の丸山公園に戻り二〇〇七年のぶらり旅を終えた。

二〇〇八年も皆さんの前に「ふらつと」現れるかもしれません。どこかで二人の姿を見かけたら声を掛けてください。今年も張り切って「ぶらり旅」に出掛けます。

シリーズ

阿久比を歩く ⑥8



於大の方コース



熊田ヶ池を泳ぐカモたち

二〇〇八年最初のぶらり旅は「於大の方コース」から始動。
第一チェックポイント「阿久比町役場」をスタート。正月は普段にも増して、よく食べ、よく飲んだためか二人とも顔がむくんでいる。
開口一番「腹回りが苦しくて、正月からベルトを緩めたままだよ」と友人に話し掛ける「ベルトは緩めなくても済みましたけど、知り合いの子どもにお年玉を配ったり、バーゲ

ふれあひマップを歩く(於大の方コース①)

あ

ぐ

い

ぶ

ら

り

旅

ンで買い物をしたりして、財布のひもが緩み放しでした(笑)。正月休みの話題で盛り上がる。
阿久比中学校を左手に見てゆくと坂を上る。正面に特別養護老人ホーム「阿久比一期一会荘」の建物が見える。老人ホーム近くの熊田ヶ池をのぞくとカモが群れを成して泳いでいる。寒風が吹き付け、吐く息は白い。私たち人間にはこの時季に水の中で泳ぐとは考えられない事だが、カモたちは楽しそうに「ガアーガアー」と鳴き声をハモらせる。
第二チェックポイントの「卯之山公園」奥に秋葉神社がある。鳥居にしめ縄が飾られ、参道石段の両脇には「奉納」と記された何本もの白い旗ざおが風に揺れる。
大きな社はないが、小さな石碑が寄せ集められ、神がまつられる。秋葉神社は「火の神様」。「今年一年火事を起こさないように」と拝み、神社と公園を後にする。
知多半島道路の上に架かる道路を渡ると、第三チェックポイント「中

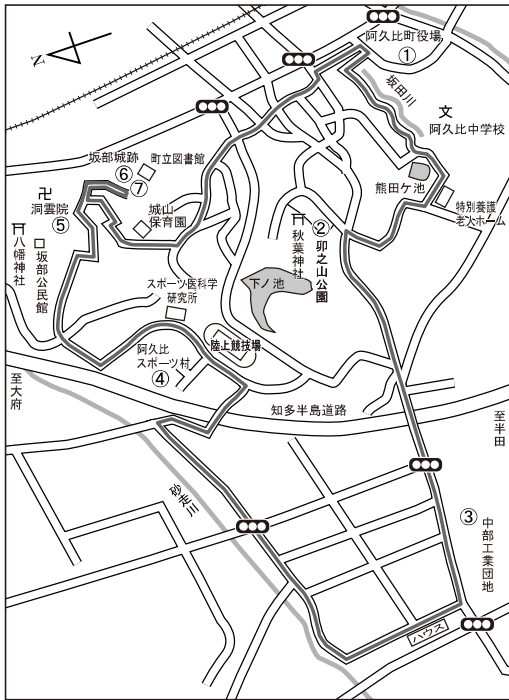
部工業団地」の各企業の工場が連なる。休日とあつて荷物を運ぶトラックの出入りはない。半島道路を通る自動車の音が響くだけで工業団地内は静かだ。
しばらく農道を歩く。この周辺の田では、レンゲソウを田にすき込んだ有機肥料を使い、米づくりを実践している。所どころで「阿久比米れんげちゃん」と書かれた立て看板を目にする。春になればレンゲソウが私たちの目を楽しませてくれるだろう。その日も近い。
「僕は今年厄年だから、静かに一年を過ごそうと思うけど、君の今年の目標は？」と友人に尋ねる。「ねずみ年ですよええ。デイズニーのミッキーマウスみたいに、常に笑顔を忘れずいたいですね。それから早寝早起きをして、暴飲暴食に気を付けたいでチュウ」。「ねずみ年にふさわしい目標だね。頑張てね」。第四チェックポイントの「阿久比スポーツ村」が目の前にきていた。
次号に続く。



秋葉神社の鳥居と参道

シリーズ

阿久比を歩く⑥



於大の方コース



坂部城跡に建つ町立図書館

陸上競技場のフィールドの芝は薄茶色。鮮やかな緑色に変わるまでにはもう少し時間がかかりそうだ。第四チェックポイント「阿久比スポーツ村」の敷地を歩く。

野球場を見ながら、「実はここで野球をしたことがあるんだ」。友人に少し自慢げに話す。「どんな感じだったんですか」と尋ねられ、「広くてプレーするには最高な場所だね。打席にも三回立てて、気持ちよく三

ふれあいまっづを歩く(於大の方コース②)

あ
ぐ
い
ぶ
ら
り
旅

振できたよ。あのとときのピッチャーがさあ・・・」。しばらく私の一方的な野球談議で盛り上がる。球春が待ち遠しい。

於大の方ゆかりの地へ向かう。細道の坂を下ると第五チェックポイント「洞雲院」が見えてきた。

洞雲院は徳川家康の生母、於大の方の嫁いだ久松家の菩提寺。知多四国八十八カ所第十五番札所でもある。境内には町指定文化財「久松・松平家墓地」があり、その中に於大の方の遺髪墓もある。

葬地に行ってみる。鳥のさえずりが響き渡る。十年前から一人で知多四国を巡っているという年配の女性に出会う。於大の方の「わが子家康」の幸せと女性の幸福招来をこの寺で祈った話を知り、毎回遺髪墓の前で手を合わせるとのこと。「静かな、いい場所ですねえ」と笑顔で言葉を残し、私たちの前から立ち去る。女性性は於大の方に何を語り掛けたのだろうか。少し気になった。

第六チェックポイント「坂部城

跡」は洞雲院から少し歩いた場所にある。現在は城山公園となっている。第七チェックポイント「町立図書館」とは隣り合わせにある。

於大の方は家康を生んだ後、天文十六(一五四七)年坂部城主久松俊勝と再婚。政略結婚のため幼い息子と離ればなれとなる。家康は桶狭間の戦いを控えた永禄三(一五六〇)年母に会うために坂部城に立ち寄ったと言われる。

公園を通り抜け、図書館をのぞくと、母親が幼い子に絵本を読み聞かせている姿を目にする。「於大の方が見れば、うらやましい光景でしょうね」。珍しく友人が真剣な面持ちで話す。「そうだよな・・・」。今回は最後に少し「考える」ぶらり旅となった。

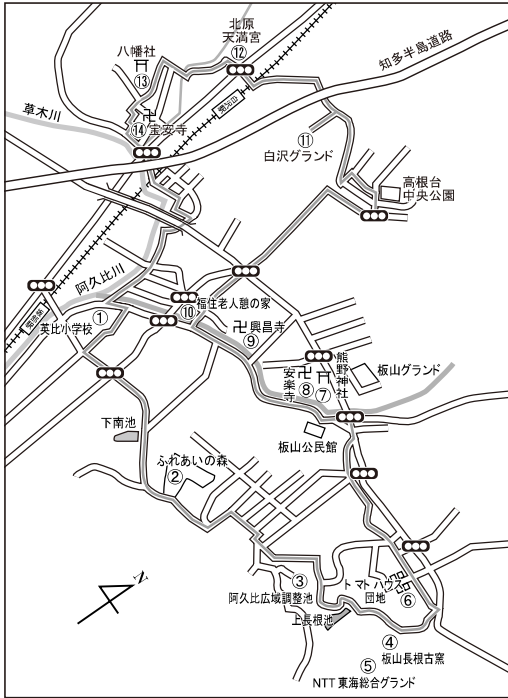
次の日「絵本を読んでいたお母さん、きれいでしたよね」と友人が私に話し掛けてきた。(あの時の真剣な友人の面持ちは何だったのだろうか。)



阿久比スポーツ村野球場

シリーズ

阿久比を歩く⑦



ふれあいの森に咲く 小梅の花

ふれあいマップを歩くシリーズの最後となる「体力づくりコース」にぶらり旅に出掛けた。
「英比小学校」をスタートしてふれあいの森」に向かう。県道名古屋半田線を横断してからの道のりは緩やかに長く坂が続く。歩き始めて間もないのに息が切れる。横を通り過ぎる車のエンジンもいささか音がにぶい。
第二チェックポイントの「ふれあ

ふれあいのマップを歩く(体力づくりコース①)

あぐいぶらり旅

ふれあいの森を後にして第三チェックポイントの「阿久比広域調整池」を目指す。南方の土地では、大規模な宅地開発が進む。今は仕事を休めているが、広大な区画にブルドーザーが点在する。間もなく新しい町並みが出来上がる。

いの森」に到着。施設内では小梅の花が咲く。昨年よりも一週間早く咲き始めたとのこと。木の枝で小鳥が羽を休める。まだ二部咲きの花の回りでつぼみが膨らみ、咲く順番を待つ。春の息吹を感じる。
「♪消えそうに♪ 咲きそうなく蕾(つぼみ)が♪ 今年も僕を待つてる♪♪」目を閉じて歌う友人の声が裏返る。歌声を聞いてか、つぼみたちがクスクスと笑っているかのようだ。
梅の花が開花したとはいえ、体感温度はまだ冷たい。子どもたちは寒さを吹き飛ばすかのように芝生の広場で走り回る。とても元気。子どもはこうでなければ」と思う今日このごろ。

細い道が何本もあるために、どの道を進んでいいのかわからない。道に迷う。「カーカー」とカラスが鳴き、私たちの動きをのぞき込む。とても不気味だ。「水を大切に」と書かれた貯水タンクを目標に歩き、やっとのこと第三チェックポイントにたどり着く。
非公開の第四チェックポイント「板山長根古窯」の場所を遠くから眺め、第五チェックポイント「NTT東海総合グラウンド」(現在閉鎖中)の入り口付近を通り、第六チェックポイントの「トマトハウス団地」まで一気に進む。
今回のコースは十・五キロの長丁場。周辺梅畑の花見をしながら休憩を取る。

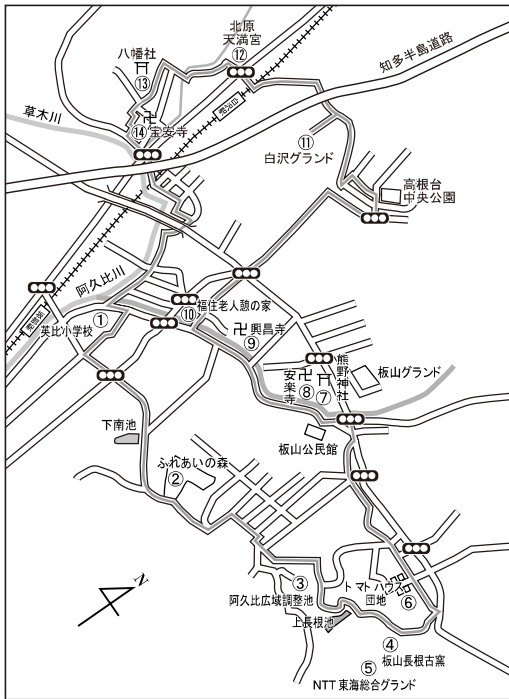
へうめー梅 早く食べたい 梅干しで(詠み人友人)
面白い句を詠んでくれたので、疲れが少し取れた。
次号につづく。



愛知県水道貯水施設の貯水タンク

シリーズ

阿久比を歩く ⑦①



興昌寺の山門と行者堂

第七チェックポイントの「熊野神社」に立ち寄る。境内奥の小高い丘に酒造神「松尾皇太神」の石碑が立つ。かつてこの地から杜氏（とうじ）と呼ばれる酒造りの職人が、全国各地に出掛けて行った。杜氏たちはこの神社で美酒醸造を祈願したといわれる。

「最近飲み会に行くと、ビールよりも熱燗にした日本酒を飲むんだよね。」「だんだんと「おやじ」になっ

ふれあいまっづを歩く(体力づくりコース②)

あ

ぐ

い

ぶ

ら

り

旅

てきましたね」と友人に言われたが返す言葉がない。

人の声が騒がしい。第八チェックポイント「安楽寺」の山門前から長い人の列が続く。私鉄会社が「知多四国」を歩いて巡る企画を催し、今日は阿久比町にある「知多四国」を巡る日ようだ。「納経所」前から人の列が始まる。今年は知多四国霊場開創二百年の節目の年に当たり、記念の朱印を押してもらえらしい。

知多四国巡りの参加者にまぎれて福山川沿いを歩き、第九チェックポイントの「興昌寺」に向かう。

興昌寺の参道や境内も多くの人でごった返す。山門右の行者堂に知多四国八十八所霊場三開山の一人で福住出身の岡戸半蔵木像がまつられる。

文化六（一八〇九）年、古見（知多市）妙楽寺の亮山上人の夢に弘法大師が現れ「知多の地に霊場を開きなさい。協力者として二人の行者を遣わす」と告げたことが知多四国の始まりとされる。岡戸半蔵と讃岐香



酒造神「松尾皇太神」の石碑

川（知多市）の武田安兵衛が、二人の行者」となり三人で知多半島の寺を巡り、八十八所霊場を制定する。

「知りませんでした。そうなんですか」。行者堂で手を合わす名古屋から来た親子は岡戸半蔵の存在を知り驚いていた。知多四国霊場開創二百年にもかかわらず、尽力してきた先人が意外と知られていない。行者堂に目を向けず素通りしていく人が多いのは少し残念だ。

再び川沿いを歩き、第十チェックポイント「福住老人憩の家」の前を通り北へ向かう。

二人の会話が途切れる。散歩をする犬と男性にすれ違う。その場を盛り上げようと私が「面白い話をするよ。さっきの犬、顔も白かったけど、しっぽも白かったよね。しっぽのこ」と尾（お）とも言うよね。尾（お）も白いで『オモシロイ』。どう、面白い話だろ」と話し掛ける。「すごいおやじギャグですね」とかわされた。

体力づくりコースは先が長い。次号につづく。

シリーズ 阿久比を歩く ⑦②



八幡神社狛犬の上に残されたツト
高根台西公園前の信号を左に曲がり住宅街を通り抜ける。少し歩くと住宅がなくなり、畑を横目に細い坂道を上り第十一チェックポイントの「白沢グラウンド」を目指す。
人の声が聞こえる。グラウンドでは揃いのユニホームを着た子どもたちが野球の練習に励む。コーチの大きな声が飛ぶ。それに負けじと駆け回る子どもたちの姿は実に気持ちがいい。

ふれあいまっづを歩く(体力づくりコース③)

あ
ぐ
い
ぶ
ら
り
旅

「この少年たち、大リーガーのイチローは知っていると思うけど、星飛雄馬の大リーグボールは知らないだろうなあ。私がくだらないことを言う」と、僕も知らないですよ。ええ。そうなの。友人と年の差を感じた。第十二チェックポイントの「北原天満宮」に梅の花が咲く。北原天満宮は天曆九(九五五)年、菅原道真公を祭神として、阿久比の郷を開いたといわれる英比磨(道真の孫)住居跡に建てられたとされる。
道真公が梅を愛し、英比磨の子孫で坂部城主になった久松家が梅を家紋としたゆかりもあり、梅の花は町の花」にも制定されている。
へ東風吹かば 匂ひおこせよ梅の花
あるじなしとて 春をわするな
道真公が詠んだ和歌が境内の立て札に紹介されている。「へうめー梅早く食べたい 梅干で」と詠んだのは君だったよねえ。いつかどこかで紹介されることを期待するよ。「いやー、僕の作品なんか・・・」。友人の笑顔はまんざらでもなさそう。

第十三チェックポイントの「八幡社」に着く。この神社では、毎年旧暦の一月七日の早朝に「山の神祭り」が行われる。わらで長さ一丈ほどの「ツト」と呼ばれる縄を編み、神社拝殿前に飾られた縄にツトを掛けて「山の神の頂栄さ無事息災に頂栄さ・・・」と唱えながら一年の豊作や健康が祈られる。二月十三日に祭りが行われたと聞く。狛犬にツトが残される。縁起物だと思ひ、私たちもそのツトに触れて境内を後にする。
十・五ギあつた「体力づくりコース」もいよいよ最後の第十四チェックポイントの「宝安寺」を残すのみとなった。重かった足取りもいつのまにか軽やか♪梅は咲いたかあー、桜はまだかいなあー♪二人で鼻歌を口ずさむ。あつという間に宝安寺に到着した。
今回のぶらり旅では、運動不足も少しだけ解消できたし、春の訪れも感じることができた。次はどこへ出掛けようか考えながら帰途に就く。



北原天満宮に咲く 梅の花